

歯科医院でおこなうレントゲン検査ですが、「放射線って体に影響はないの？」と心配される方もいらっしゃると思います。今回は歯科レントゲンの安全性についてご紹介します。

放射線って??

放射線とは、物質から放出されて周囲に広がるエネルギーのことをいいます。目には見えませんが物質を通り抜ける性質があります。放射線は特別なものではなく、宇宙や大地、食べ物など自然界にも存在していて、私たちの日常生活の中でもわずかに受けています。

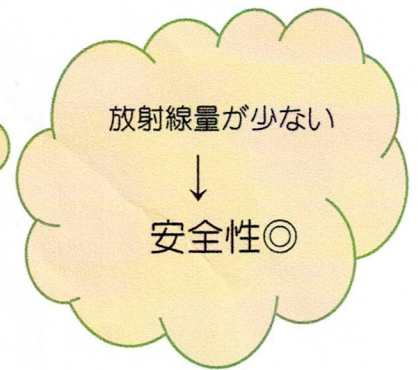
歯科レントゲンの検査の目的と役割

歯科用レントゲン検査は目で見えないお口の中の状態を確認するための大切な検査です。

歯と歯の間のむし歯や歯の根の状態、歯の根の先の炎症、歯周病による骨の減少、親知らずの位置、あごの骨の状態など、歯や骨などの状態を詳しく調べることでより正確な診断や治療につながります。

放射線量の比較

検査	放射線量
1年間にうける自然放射線量	約 2.1 ミリシーベルト
歯科デンタルレントゲン (一部)	約 0.01 ミリシーベルト
歯科パノラマレントゲン (全体)	約 0.03 ミリシーベルト
歯科用 CT	約 0.1 ミリシーベルト
マンモグラフィー	約 0.2 ミリシーベルト
腹部レントゲン	約 0.7 ミリシーベルト
頭部 CT	約 2 ミリシーベルト
胸部 CT	約 6 ミリシーベルト



パノラマレントゲンと歯科 CT

歯科では、お口の中の状態を詳しく調べるためにパノラマレントゲンや歯科 CT という検査を行うことがあります。どちらもレントゲン検査ですが見える情報が異なります。パノラマレントゲンはお口全体を2次元的に1枚で確認できる検査です。主にむし歯や歯周病、親知らずの位置など広い範囲で確認することができます。初診時や定期健診など、お口全体のチェックでよく使われます。歯科 CT は歯やあごの骨を3次元的に確認できる検査です。主にインプラントの治療前の確認や親知らずと神経の位置確認、歯の根の病気、あごの骨の状態などより詳しい診断が必要な時に使用されます。

Q 妊娠中でもレントゲンは撮影しても大丈夫ですか？

レントゲンはお腹から離れた部位を撮影するため胎児への影響はほとんどないとされています。また、撮影する際は防護エプロンを使用するなど安全に配慮して撮影を行います。不安な場合はスタッフへご相談下さい。

【コラム】飛行機でも放射線を受けるってほんと？

実は、飛行機に乗ると地上よりも多くの放射線を受けると言われています。地上では大気がクッションの役割をしてくれて宇宙からの放射線を弱めてくれていますが、飛行機は高度約1万メートルの上空を飛ぶため、宇宙から届く宇宙放射線の影響を地上より受けやすくなるからです。例えば東京～ニューヨーク間の飛行機に乗ると約0.1 ミリシーベルトの放射線を受けると言われています。

飛行機でも放射線 受けるのは初耳? (Y)	改めてレントゲンの 安全性と役割が 確認できてよかった! (Y)	歯科のレントゲン写真の 放射線量は少ないな (Y)	放射線量を知らずに 安心してレントゲンを 撮ることができずね H.N		歯科のレントゲン 撮影は(主に)安心 (Y)
歯科のレントゲン写真 安全性◎を知って 良かったです。 (B)	さらに防護エプロンで 体を守ります (K)	日常生活でも年間 一定量の放射線と 受けらるんですね (B)	見えないのが不安でも 歯科では安心して 大丈夫なんですね。 A.Y		ありとあらゆる 別冊さんでいろいろ 学習しました。 (A)